第四百九十號　（木曜日）　夕刊　報民きわい　昭和二十二年十二月十一日　（第三種郵便物認可）　昭和二十一年六月一日　（一）

いわき民報

所行發　社報民きわい
平市田町四八番地電三八一番
編輯兼發行人　千葉克己
兼印刷人　千葉克己
（但月曜を除く）
定價一月十五円一部五十錢

知事を會長に
期成同盟會結成さる
平、松戸間電化促進運動本格化

平、松戸間の常磐線電化問題は議會で採擇となつたのに力を得た、平商工會議所では、この際一氣に實現させようと猛運動を展開することゝし、九日の役員會を機に例の期成同盟會で正式に強力なものを結成することゝし、會長には石原知事を推し、副會長には諸橋久太郎會頭、鈴木市長並に郡町村會長酒井大浦村長を擧げ、評議員には各町村長、事業所その他各團体長等四十名を會長から委囑、更に十五、六日に評議員會を開いて評議員中から十余名の實行委員を選任、即時運動に着手することに決定し、こゝに電化促進運動も本格化した、なお事務所は平商工會議所に置くことになつた

炭勞支部臨時大會
鑛連との協定書の討議等を

炭勞常磐地方支部では十三日午前九時から平市公會堂日本間に第二回臨時大會を開いて交渉前後七回、決裂の寸前で七日午後五時漸く假協定書を作成解決した鑛連に對する前借金要求問題について討議するとゝもに今後の鬪爭方針等について協議することに決つたが、特にこの協定書に對する責任ある態度を中勞委が如何に示すかについて大きな期待をかけている

增產準備金と
奬勵金
假協定書の內容

炭勞と鑛連との間に假協定の成立した前借金要求の解決案は去る十月三日閣議で決定された非常增產對策要綱領中の諸施策の具体的實施に關しては各加盟炭鑛の勞資間で夫々早急に團体協約を締約を確約增產準備金として職員に一人當り千二百五十円、鑛員に千五十円（但し十月一日在籍者で支給當日在籍のもの）を支給、又十二月以降の毎月の出炭成績に應じ左の生產奬勵金を支給する（單位円）

◎出炭目標達成五二七◎目標三%以上突破六二七◎六%突破七二七◎九%突破八二七◎一二%突破九二七◎一五%突破一〇二七（なお職員にはこの二割五分增とする）

なお增產準備金及び生產奬勵金の各人に對する記分方法は各炭鑛經營協議會で協議決定するというもの

石城醫師會誕生す
正副會長に木村、內木、前田三氏

縣醫師會石城支部では今度改組、石城醫師會として獨立、活潑な活動を開始することゝなり九日午後二時から本社ホールに總會を開いて異議なく改組に決定、清水廣政、酒井保、大森勇氏等の舊幹部は總退陣、新陣容を選擧により左のとほりに定めた

◇會長　木村淳（平）◇副會長　內木宗八（平）前田清美（植田）◇理事　鈴木正男、江尻伊三郎、齊藤正雄、大河內一郎、實川泉二（以上平）西山義意（四倉）草野道平（小名濱）鈴木凞（植田）

食調と實行組合長會議
市の食糧調整

委員並に農事實行組合長會議は十一日午前十時から市內第二小學校に開き、供米部落割當について打合せする

讀賣は出たら目
大野市議も怒る

九日附讀賣新聞福島版の記事は出たらめだ、と大野市會議員は憤慨して語る

讀賣新聞は八日の記事で金古議長が第一校問題の黑幕のように書いて告訴されたが、更に九日の記事に依つて讀賣が如何に出たらめを書いているかを立證している、即ち『斷固司直の手、へ注視の市會開く』の記事中へき頭元防空監視所問題及び派生事件の松山問題とするも、順序が全然違つているし、混亂に陷つた事實もない、『金古議長の不正暴露』の記事は全くの出たらめで、金古議長の不正は何一つ具体的に現れていない、六項目のうち小沼復興課長、長谷川學務課長、金古議長等が藝者を擧げて遊興したことは質問されていない、金古議長が縣の認司もなく、また佐藤前助役の認印ありとして住居したなどの質問は全然ないのに記載して居り、一號の松山問題釘の交換も當時者にはからず獨斷でやつたなども質問とはおよそかけ離れたことを書いている、これは明かに宣傳に乘つた事前記事である、大新聞の權威にかけて遺憾であり、同志金古の名譽のために眞實を公表する

監視所建物
二重拂下
增子さん面喰ふ

監視哨拂下げ問題について市當局は無償で哨長增子當治へ拂下げた如く市當局は說明しているが、柴田議員が質問したように『市は豫算を計上したが國庫及び縣費寄附金等四千余円で建築したが所有權は防空協會にあつて、縣防空課が管理していたもの』從つて縣當局は『監視哨長か哨員に拂下げるべし』と平署長に命令を發し、增子さんが有料で縣から拂下げているものである、從つて市當局が無料で增子さんに拂下げたとすれば、市と縣から二重に拂下げを受けたことになり、當の增子さんも面喰つている當時縣の拂下げに關係した橫山巡査部長も『監視哨員の慰勞に緣故拂下げしたものだ』と問題になつたことに驚いている

結局市當局は誤つて財產に存置してあつた爲形式的に無料拂下げを行つたものゝ如く、柴田氏の質問が當を得ている

民報論壇
金古議長目標か
調査書は一方的

第一小學校建設に伴う不正事件が司直の手に委ねられた。市會の決議に依つてこれを行うことについては田原君の指摘されているように輕卒のそしりは免れぬであらうが、檢察當局に依つて眞相を究明する點は同感である。唯この場合、鈴木市長が原告となつて指名告發するのか、但しは單なる窃盜の屆出でを爲すのか檢討を要する問題であろう指名告發の場合、萬一窃盜事實無しとすれば市長のぶ告罪が成立する。告發決議した市會も又責任を問はれることになろう。素人である七名の委員調査に信を置いて司直へ告發することの決議が根本的に無理があつたと思はれる。

第二は新妻議員が指摘したように、この調査書は一方的であつたことは明かだ何故ならば伊藤前市長等の聲明書にも現れているように、委員會の調書と聲明書には數字的に非常に大きい喰い違いがある。

委員會の報告も一つの觀方であるからどのようにデッチ上げようと差支へないが前理事者の意見は同時に附帶して說明すべきであろうあの報告書は故意に執つた態度としか思はれない

即ち熱海の拂下げ四千石のうち、實際に檢收した素材石數は三千二百六十四石であり、然も現市長になつてから八月終了している。檢收石數に於いても委員會は拂下げ石數より千石も增收を見込んでいるところにとんだ狙ひがあつた。素人の調査だから見當違ひもあろうが、立木に對する素材の率は七割乃至七割五分と算定されて居り、委員會が千九百石不足というべらぼうな數字に對し、寧ろ二百四十六石多く出ていると發表されたのも面白い對照である。前市長等の長文になる聲明書は昨日の本紙に全文掲載されているので市民は特に御精讀を願いたい。

八日の市會を傍聽して感じたことは、第一校の不正事件なるものに流れる空氣は、一貫して金古議長を目標としていることである。金古を議長にして犬ぶん的な市長派の腹いせとすれば民主市會の權威のため遺憾である。もつとも汚いと感じたことは、金成、柏原、鈴木の三議員の質問とこの答辯であつた。

鈴木氏の質問は、證據なしとして委員會が取上げなかつた疎開地の木材なるものを質し、これに高木委員が金古氏の倉庫にある木材を窃盜品の如き印象を與へる答辯をしている金成氏に至つては『金古、小沼、飯岡、佐藤がこの事件に踊つて仕事をしている』と極論し、小沼を金古が連れて來た如く斷定しているが、小沼氏は伊藤前市長が推薦し、俸給四千円說にたいして金古氏が條令を楯に二千五百円に削つたほどだと聞く金成氏に對しては金古議長から何等かの處置を執ることになろう柏原氏は金古が神中組から手當を貰つている點にふれた。これに對し高木委員が篠崎支店長より三百円貰つていると恰も第一校建築顧問料のような印象を與へる答辯をしている。金古氏は知る人ぞ知るだが、神中組に工場を齎却し、その當時からの顧問であり第一校請負契約のずつと以前、即ち篠崎支店長前からのつながりがあつたのである。神中組の保證人が強口唯七郎氏であり顧問でもあり同工事の頭梁片寄傳右衛門氏も強口氏の推薦になつていることを知る人は尠い。萬一神中組の責任問題が起れば金古議長よりも強口唯七郎氏が負うことが大きいのではないか金古議長は吾が社の專務取締役なる故に辯護するのだと取られるのは遺憾だが、私は個人的に金古氏の潔白を絕對信じていることを附言する（新澤武藏）

次類書畫骨董
貴金屬
高價買入
平市南町　中央會館

眞野の古墳發堀見學記

史話會會員　菊池康雄

次の円墳は封土を取りのぞき表土より二米下に蓋石が表れている。實測する爲に一人の學生が石に付着する土を竹ベラや移植コテで取りのぞいていた。この仕事は午前中で終り、午後から實測を初め二時過ぎ終り江坂さんなどの手によって蓋石が取りのぞかれた。千數百年前に葬られたこの石棺より何が發見されるであろうか、期せずして皆の眼は一せいにそゝがれた。

竹ベラが動き移植コテによって愼重に土が取り去られる。私は他の見學者と同樣封土の上にいたが江坂さんが「菊地さんこちらへおいでなさい」と言はれるので石棺の近くにおりて行く、東側から堀り進むは江坂さん、西の方より堀るは堀田さん眞劍に靜かに土は取られてゆく、出た、人骨が表れた。「これは人チャンが出たよ」「メンドウな物が出たね」等と話しつつ仕事は進む。

竹ベラにて集められた土はチリ取にて棺外へ取り去られ人骨は次第に姿を表してくるシュロの小ぼうきにて附着の土わはかれカッ色の骨が土の上に浮く、河北新報社の寫眞班が石棺や人骨の寫眞を數回撮影した。ライカの寫眞しい機械である。

人骨は頭骸の一部と、齒の一所より出たのは、諸學者も首をひねっていた。腕も足も頭も一所から出たわけだ。完全に七ヶ所取りのぞかれたが、副葬品は何もなかった。夕方になったので寫眞や寫測は明日の仕事として、スケッチを取り石の蓋をして歸る事になった。

製圖版や寫眞機を近所の農家に依頼して歸宅についたのわ薄暗くなり、鳥がネグラに急ぐ頃であった。農家の人々もおそくまでの仕事に驚いて時過ぎであった。

×　×　×

宿に歸れば相馬中學の古代文化講演會より歸られた藤田亮策、松本信廣の兩先生がおられ、江坂さんの紹介にてお眼にかゝった。

夕食後製圖や記錄、遺物の整理などが、諸氏の手によって行はれた。私は御厚意によって石製模造品や直刀のスケッチをしたり、曲玉、管玉、切子玉などの記錄をした。

入浴して床についたのは九時過ぎであった。

常磐地區の代表決る

全國炭鑛素人のど自慢大會

常磐、北海道、山口及び九州の各炭鑛では地元放送局の協力を得て來る十一日（木）午後八時からの「炭鑛に送くる夕」に各鑛選り拔きの素人のど自慢をNHKから特別放送する事になったが常磐地區の代表者は次の通り決定した

◎浪曲ものまね「名人調」日豐福島鑛小針秀夫

◎歌謠曲「港シャンソン」常磐内郷鑛夷河江義雄、「南の花嫁さん」常磐仝山崎ヤス子「懷かしのボレロ」重内鑛針生ツヤ

縣民稅の賦課打合

地方事務所では十一日午前十時から各町村稅務主任連を市内田町大貞にあつめて本年度縣民稅賦課額についての打合せを行う

松川安齊の兩君が優勝

十二日將棋例會

平將棋互樂會の七日の十二月例會の成績はたの通りB組

置へ備に停電

自家發電裝置

サービス館のご案内

市内常設館唯一の洋樂專門館聚樂館では電力事情の窮迫から連日連夜停電が實施されその度に映寫を中止するので、觀客の感興をそぐことがおびたゞしいのに鑑み、今度自家用發電裝置を設備、停電時でも支障なく映寫して觀客にサービスすることゝし工事中だがいよ〳〵市内各館のトップをきって十日からこの新裝置の活用を開始することになり非常にファンから喜ばれてゐる

米五俵木炭七十五俵

重要輸送物資の取締り成績

平署では去月二十五日から去る六日までを期間として重要輸送物資の一齊取締りを實施したが、網に引掛つた總件數は三十五件で收獲は白米五俵、木炭七十五俵、石炭三トン、新二百五十把ぐらゐ送檢は十三件

不屆至極な主事補殿

平署員が去る六日夜十時頃市内平神橋附近で張込中、神谷村方面から來た農業會平營業所トラックを臨檢したところ意外にも同會資材係主事補紺野偉（一六）同トラックの運轉手永瀨涉（三一）の兩名が共謀四倉農業會宛の報奬物資を運搬して中途を利用、紺野は相馬郡宇多中村から白米六斗を石油箱三個につめてたくみに農機具類と見せかけ、永瀨は同郡小高町字岡田農業田村忠次より贈與白米一石を贈賄し麻袋に入れトラックの下段に藁で隱蔽しているのを發見、押收したがかゝる職務違の不正には今後一層取締りの目を光らせ嚴罰主義で臨むことになつた

平署行政主任異動

九日の晝

祭興動で郡山署經濟主任に榮轉した、平署宮川行政主任は十三日午前十一時十七分發列車で赴任する。なお平署後任行政主任は植田署金出巡行政主任と

小名濱町會

小名濱町では十一日午前九時より定例町會を開き、專決事項報告、町稅賦課徵收條例改正、町民稅賦課、選擧區條例設定、二十二年度歲入出追加更正、豫算の諸件を附議する

木炭配給

市内第二十四區

三浦宗三郎（八級）4藤原正七（十一級）

共同募金委員會役員等決る

國民扶け合い運動の社會事業共同募金委員會は九日開いて募金計畫その他役員を選任したが、副會長には井上貞治郎氏が推され、常任委員には根本會利收入役等が選任された

木炭配給

市内第二十四區

給は十日から三日間、年割當九表以上の家庭へ

未受配者は一市では青次回入荷に二年の保健

止二級十六才以上二十五才未滿の男子青年に一人當り一合宛酵油を去る四日から五日間の豫定で配給中だったが、配

一個でも迅速にお屆けします

電氣工具　ラジオ　その他

電氣工事請負

湯本町三函（電二一番）

大隅電氣商會

麻雀大會

久しく休業していましたが來る十四日より趣向を變へて開業致します、何とぞお遊びのほどお待ち申上げます

期日　十二月十四日（日曜）午後一時

會費　百圓

賞品　十等まで

場所　平和莊

田町三（世界館横とらや）

急募

人員　貳名

年令　十八才より二十才まで

資格　高女卒程度

條件　市内居住者、優遇す

希望者は十三日午前中自筆履歴書持參來社のこと

平市假谷町二十七番地

有限會社　平製パン

電話二十一番

女事務員

狩獵道具問屋

平署では十日から二十日までを期間に狩獵道具問屋週間を設け、改正規則の周知徹底を期することになつた、なお空氣銃、ワナ、鳥モチの使用は違反となる、過日も赤井日曹赤井鑛の荷馬車拠の十九少年が友人から空氣銃を借りて雀五羽とつて違反にとわれてる

Xマスツリー

及び材料

可愛いお子樣方へ贈物

正月用羽根　羽子板，カルタ類

森下商店

平市一目丁

母セイ儀十二月午後五時急逝仕候間生前ノ御厚誼ヲ深謝シ此段御通知申上候

追而葬儀ノ儀ハ十二月十一日午後一時長橋町性源寺ニ於テ告別式相營ミ可申候

昭和二十一年十二月九日

内郷町白水字濱井場一

喪主　賀澤道雄

賀澤貞雄